

〔生薬学雑誌, 38, 287 (1984)〕

中成薬・牛黄上清丸の顕微鑑定研究

徐 国鈞*, 徐 珞珊*, 田中俊弘

Microscopic Identification of Chinese Patent Medicine · Niuhuang
Shangqing Wan

GUOJUN XU*, LUOSHAN XU* and TOSHIHIRO TANAKA

中国においては粉末生薬を混合して製造した中成薬が多数あり、構成生薬も58種類にもおよぶものもある。各生薬の確認には化学的方法に比較して顕微鏡を用いる方法が便利である。牛黄上清丸は19種類の生薬から成るのでその確認法の確立を試みた。その結果以下の特徴をもって合配合生薬を確認することが出来た。

1,牛黄(人工牛黄), デンプン粒に黄金色素の附着した団塊; 2,薄荷, 頭部が8細胞からなる腺鱗, 柄は無色, 葉の上面表皮に扇形扁平な結晶がある; 3,菊花, 24~30 μm^{ϕ} 球形で表面に刺のある花粉粒; 4,荊芥穗, 果皮(粘液)細胞に褐色の色素層が内接する; 5,白芷, 淡黄色の分泌物を含む油道; 6,川芎, 網紋をとまなうラセン紋導管と類円形の集晶; 7,梔子, 紅褐色の色素を含む種皮石細胞; 8,黄連, 多角形で鮮黄色の石細胞; 9,黄柏, 鮮黄色で分板状の石細胞; 10,黄芩, 淡黄色で紡錘形の繊維; 11,大黄, 60~140 μm^{ϕ} の大形の集晶; 12,連翹, 紡錘形で縦横に交差した繊維群; 13,赤芍, 大形の有縁孔紋を有する紡錘形の仮導管; 14,当帰, 細胞壁に斜に交差する紋理を有する紡錘形の柔細胞; 15,地黄, 暗褐色の核状物を含む柔細胞; 16,桔梗, ところどころで連絡し合った乳管に細顆粒を含む; 17,甘草, 無色の結晶細胞列; 18,石膏, 無色片状結晶; 19,氷片(合成ボルネオール), 針状~片状昇華物, バニリン-硫酸で紫紅色を呈する。

* 南京薬学院, 粉末生薬の研究(第1報)

〔Shoyakugaku Zasshi, 38, 292 (1984)〕

Pharmacognostical Studies of Genus *Geranium* (1)Morphology of Epidermal Hairs of Japanese Species of Genus
*Geranium*SHINTARO NOMURA*, TOSHIHIRO TANAKA, YOICHI HISATA*,
YUKIO NORO* and KOICHI KIMURA**

ゲンノシヨウコ属の生薬学的研究(1)

日本産のゲンノシヨウコ属植物の表皮の毛の形態

野村新太郎*, 田中俊弘, 久田陽一*, 野呂征男*, 木村康一**

日本に自生するゲンノシヨウコ属植物15種類(1, *Geranium eriostemon* var. *reinii*; 2, *G. erianthum*; 3, *G. Krameri*; 4, *G. yoshinoi*; 5, *G. yesoense*; 6, *G. yesoense* var. *palustre*; 7, *G. yesoense* var. *nipponicum*; 8, *G. shikokianum*; 9, *G. shikokianum* var. *yamatense*; 10, *G. soboliferum*; 11, *G. sibiricum*; 12, *G. tripartitum*; 13, *G. thunbergii*; 14, *G. wilfordii*; 15, *G. robertianum*)と帰化種1種(16, *G. carolinianum*)の16種類について、萼片, 花茎, 葉柄, 葉の上面と下面の毛の種類を比較した。開出する多細胞性の腺毛は *Sylvatica*, *Sect. Mexicana*, *Sect. Robertiana* とにわたっていた。開出毛は *Sect. Sylvatica*, *Sect. Palustre*, *Sect. Sibirica* と *Sect. Mexicana* とに見られた。一方, 圧毛は *Sect. Robertiana* を除くいずれの *Section* にも認められた。これらの結果から使用した16種類を毛の種類の点で5大別することができた。この結果は Knuth の分類体系(R. Knuth, 1931; T. Nakamura et al) とよく符号していた。

* 名城大学薬学部, ** 東日本学園大学薬学部